

[第1号報告]

1-1. 2014年度事業計画書

1. 概況：重点活動
2. 会員の異動予想
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）
5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）
6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）
7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）
8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）
9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）
10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）
11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款4条1項6号）
12. 法人運営

（参考）情報処理学会 中長期計画

2014 年度 事業計画書

1. 概況および重点活動

少子高齢化、企業内基礎研究活動の低下、IT 技術のコモディティ化や急速な技術・サービス革新、グローバル競争の激化などの外部環境の変化の中で従来型の学会運営は厳しさを増している。多くの学協会では、会員数や収入の継続的減少に悩まされている。一方で、急速な技術革新や新たなサービスの出現などにより、情報処理分野における技術イノベーションへのニーズはますます高まっており、本学会の果たすべき役割は広がっていると考えられる。

このような環境の中で、会員向けサービスを充実させ、会員数を増加させ、人と社会の幸福のためのより良い情報環境の確立に貢献し、その中で安定した黒字化運営を行うためには、中長期戦略を策定して安定成長を担保しつつ、その上で若い世代の斬新なアイデアを取り入れ、社会ニーズの変化に応じて、学会の種々の活動をタイムリーに刷新していける柔軟な運営が必須である。

本学会においても、一昨年までは、会員数が継続的に減少し、学会の活動が縮小する状況であったが、昨年度は学生会員獲得などの諸施策により、会員数の増加を果たした。ただ、これを継続させるのは昨年度以上の努力や改革が必要である。

本年度は、学会の抜本的改革の初年度と位置付け、運営体制の充実、若手アイデアの発掘と運営への活用、調査研究活動のさらなる活性化と社会への提言・情報発信、グローバル化、アカデミアおよび企業向け教育支援活動、学会情報システムのリニューアル及び会員活動のためのプラットフォーム化、会員サービスの拡充において、下記を中心とする施策を実施する。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施する。

- ① 若い世代の柔軟な発想を運営に反映させるために「新世代理事」を設ける。
- ② 長期的学会運営戦略を検討し、これを実現させるために「長期戦略理事」を設けるとともに、中長期戦略を策定し、これを適宜見直ししながら着実に実施する。
- ③ 会員の真のニーズをタイムリーに把握できる情報基盤の整備を推進する。
- ④ 第三者機関であるアドバイザリボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。

1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代対応理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」を設け、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。
- ② 2012 年度に導入した「学生無料トライアル会員制度」の試行を継続し、目標を 1,000 名程度に拡大して、本制度を足がかりに正規学生会員への移行を促すとともに、学生育成のベースとなる拠点校の拡充にも努める。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催する。

1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進する。

- ② 調査研究運営委員会，政策提言委員会，若手研究者の会が連携し，
 - (a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論の継続
 - (b) 国の政策および方針に関する各研究分野の積極的な提言活動の推進などを通じて，国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指す。
- ③ 積立資金によるプロジェクトを募集し，個々の研究会活動を超えて，領域または調査研究全体による活動を支援していく。

1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 **Journal of Information Processing**（以下，JIP）のインパクトファクタ取得について，2015年度の再申請に向けて諸対応を促進する。CVA等のトランザクションについてもインパクトファクタの取得を目指す。
- ② 査読プロセスならびに査読管理システムの国際化についても検討する。査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにする必要性と，それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ，国際的に広く使われている商用査読管理システムの精査，PRMSに替わるオープンソースの査読管理システム設計・開発の検討を進める。
- ③ 研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催するとともに，海外学協会との連携を推進する。
- ④ IEEEやACMのようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ，これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討し，これを実施する。
- ⑤ 以上の点を幅広く実施する財源を確保するため，科研費「国際情報発信強化」の獲得に取り組む。

1.5 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化

- ① 高度IT人材資格制度について，個人認証制度の本格運用を開始すると共に，企業認証の制度試案を広く一般に公開して意見を求め，試行に着手する。
- ② ソフトウェアジャパン，デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，ITフォーラムなどにより，実務家・ITプロフェッショナルの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。
- ③ 情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA）などの実務家・ITプロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め，共同イベントの開催などを推進して，会員増に貢献する。

1.6 教育活動の充実

初等中等教育，専門学校そして大学などにおける情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施する。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション（教育期間における技術者教育プログラムの認定。JABEEからの委託）
- ③ 教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における情報科目提言，大学情報入試全国模擬試験実施，教育シンポジウム・コンテストの運営と後援。

1.7 会員サービスおよび広報の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための諸施策を企画し，会員の目線で，魅力ある学会作りを目指し，必要に応じて会員制度の見直しも検討する。具体的には下記の項目を実施する。

- ① 会員サービスの向上と柔軟なサービス運営を提供するために会員の真のニーズをタイムリーに把握できる情報基盤の整備を推進する。
- ② オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進，サイトライセンスなどの新しいサービス提供形態を推進する。

- ③ 電子図書館の機能充実など、会員のニーズへ対応する。
- ④ ソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進し非会員へリーチも強化する。
- ⑤ 事業評価データの継続的な収集と分析・改善、会員満足度調査結果へ対応する。

2. 会員数について

下記の取り組みを実施し、会員数の増加を目指す。

- ・将来の正会員の母体となる学生会員数を増やすため、学生無料トライアル制度を中心に支部や研究会と連携して取り組む。支部の協力を得て学生のコミュニティを作り、自発的参加を促す。
- ・各活動において学会の価値向上に取り組む、新規会員の獲得に努める。

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2014年度の異動内訳				
	① 2014 年度末	② 2013 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	36	33	3	3	正会員から異動			
正会員	16,107	16,306	-199	550 760	学生会員から異動	1,050 3	名誉会員に異動	456
学生会員	3,498	2,975	523	1,400 500	学生トライアル	600 760	正会員に異動	17
個人会員 計	19,641	19,314	327	3,213		2,413		473
賛助会員 (口数)	228 (519)	228 (519)	0 (0)	15 (25)		15 (25)		

*2014年度期末正会員数には終身会員 448 名を含み、学生会員数には学生無料トライアル制度適用の 1,000 名を含む。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。TV 会議システム等を活用し効率的な運用に努める。

3.1 2014 年度通常総会

2014 年 6 月 4 日（水）に、東京理科大学 神楽坂キャンパス（東京都新宿区）で開催する。

3.2 理事会

年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

3.3 各種委員会

必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学会のコアの活動として重点的に取り組み、関連諸活動とも連携して活動の拡大を目指す。
具体的には下記の取り組みを推進する。

- ① 長期的な研究のグランドデザインや2013年度に定めた「情報学分野の科学・夢ロードマップ2014」に添って、情報処理分野における学術大型研究計画の企画・立案の検討を継続する。
- ② 国の政策や方針に関する各研究分野の提言活動を推進する。
- ③ 日本の情報処理学会として必要なグローバル化のための議論を継続する。国際会議を積極的に主催、共催し財務の健全化に努める。
- ④ 学生・若手に向けた積極的な取り組みにより、将来を担う学生・若手研究者の育成を図る。
- ⑤ 調査研究積立資産を活用し、個々の研究会活動を超えて、領域単位のプロジェクト、若手表彰、国際化の推進など調査研究全体の活動も積極的に展開する。
- ⑥ 若手の意見を吸上げ、研究会の動画配信など新しい取組にチャレンジする。
その他、必要に応じて、研究会組織の見直し、研究発表会への新たな参加方法の検討などを行う。

4.1 研究発表会 [所掌：調査研究運営委員会]

38研究会、2研究グループ（詳細は p.88「付表1」参照）により、155回程度（前年度156回）の研究発表会を開催する。

4.2 シンポジウム・ワークショップ等 [所掌：調査研究運営委員会]

シンポジウム・ワークショップ等については21回の開催を計画する（詳細は p.89「付表2」参照）。

4.3 表彰 [所掌：各選奨等委員会]

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、長尾真記念特別賞、喜安記念業績賞、若手表奨励賞などを贈呈する。企業名を冠にした企業賞なども検討する。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施する。

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 次期カリキュラム標準 J17 の策定開始

前年度の検討結果である次期カリキュラム標準 J17 ならびに主として人材像と評価軸に関するアセスメントの基幹方針に基づき、J17 の策定を進める。ワーキンググループ新設並びにキックオフイベントを開催し、情報処理コミュニティに対して広く興味を喚起し、多数の技術者をカリキュラム策定の議論に巻き込みカリキュラムを具体化する。

(2) 情報専門学科におけるカリキュラム標準（J07）のフォローアップ

前年度に引き続き、J07 の普及・改訂、教科書など教材の整備・提供・普及などを継続とともに、J07 のフォローアップ活動により浮かび上がった課題や対策は J17 の具体化に反映させる。

(3) 初等中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)との連携をさらに強め、高校の情報科教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて教育現場支援を推進する。また、他学協会とも連携しつつ、情報教育カリキュラムの観点から現場への支援・連携を進める。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続する。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成，専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。また，JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め，ソウル協定による国際水準の教育を目指して教育改善を推進する。

5.3 資格制度 [所掌：高度IT人材資格検討WG，個人認証試行委員会，企業認定制度設計WG]

高度 IT 人材資格「認定情報技術者」の個人認証については，2013 年度の試行結果を制度案にフィードバックした後，本格運用を開始し，認定目標を 300 人とする。資格更新に必要な CPD についても検討を行う。企業認定については，制度設計を完了させるとともに，試行を実施する。また，技術士会等関連組織との連携強化を図る。

5.4 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営する。高校教科「情報」に関するイベントは，都道府県教育委員会等の協賛を得て，高校教員が参加しやすい環境づくりに配慮するとともに，会員増に結び付けるようにする。また，大学生，高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進し，若い世代への学会のプレゼンスを向上させ会員増の活動に結び付ける。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

各大学における入試科目「情報」の採用を推進する「情報入試 WG」および情報入試研究会，「情報」を入試科目として採用している大学，「情報」の教員等と強く連携して，大学情報入試の全国規模模擬試験を実施する。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心をより高め，初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すよう，学会誌に教育関連連載記事を企画・編集する。

(4) 教員免許更新講習支援への着手

現任教員向けに，「情報」に関する教員免許更新講習の実現に向けて WG を設置し，関係機関への申請および実施運営方法を確立する。本講習を学会として実施することで，現状の「情報」に関する更新講習不足を補い，高校の情報科教員の養成を支援する。高校の教員の会員増加にもつなげる。

(5) 表彰，その他

- ① 優れた教育の実践等を顕彰するため優秀教育賞・教材賞を贈呈する。
- ② 教材，講義素材，講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討・試行する。

6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学術講習会は，学会の重要な収入源であるとともに，学生も含めた若手研究者の活動の場あるいは企業の IT 技術者の情報交換の場でもある。2014 年度は下記の方針で取り組む。

- ・全国大会と情報科学技術フォーラム（FIT）は，前年度と同様に取り組む。
- ・企業の IT 技術者向けの連続セミナー，短期集中セミナーなどの活動を活性化する。
- ・イベント周知のため，学会誌へ定期的に記事を掲載することを検討する。

6.1 全国大会／FIT

- (1) **第 77 回全国大会** [所掌：全国大会組織委員会]
会期：2015年3月17日(火)～19日(木)，会場：京都大学
参加者見込：約 3,100 名（前年度 3,030 名）
- (2) **第 13 回情報科学技術フォーラム（FIT2014）** [所掌：FIT 推進委員会]
会期：2014 年 9 月 3 日(水)～5 日(金)，会場：筑波大学
参加者見込：約 1,600 名（前年度 1,301 名）
- (3) **表彰** [所掌：全国大会組織委員会]
優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 セミナー／その他イベント

- (1) **連続セミナー2014** [所掌：セミナー推進委員会]
産業界向けのイベントとして以下を企画，開催する。参加者数見込：延 900 名（遠隔含む）。
また，前年度に引き続き，遠隔会場（関西）中継を実施する。
全体テーマ 「モバイル・クラウド時代の IT 新潮流を読み解く」
第1回（6月上旬） 「予測と意思決定のためのアナリティクス技術」
第2回（7月中旬） 「ウェアラブルが切り開くIT新潮流」
第3回（9月下旬） 「DevOps等のソフトウェア開発新潮流」
第4回（10月中旬） 「モバイル・クラウド時代を加速するIOT（Internet of Things）」
第5回（11月上旬） 「モバイル・クラウド時代のデータプライバシー」
第6回（12月中旬） 「アナリティクス適用事例」
- (2) **短期集中セミナー** [所掌：セミナー推進委員会]
学生・若手開発者向けの 1 日開催のセミナーを開催する。実務者向けのイベントを新規に開催する。
関連団体と共催しセミナーを開催する。
- (3) **ソフトウェアジャパン 2015** [所掌：IT フォーラム推進委員会]
会期：2015 年 2 月（予定），会場：東京都内（予定），参加者数見込：500 名
① プログラムの充実，スポンサーの拡大などにより，運営の改善を図る。
② ITフォーラム，デジタルプラクティスとの連携によりシナジー強化を図る。
③ ソフトウェアジャパンアワードの選定を行い表彰する。
- (4) **プログラミング・シンポジウム** [所掌：事業運営委員会]
以下3つのシンポジウムを開催する。
① 第56回プログラミング・シンポジウム 会期：2015年1月頃予定 合宿形式
② 夏のプログラミング・シンポジウム 会期：2014年8月頃予定 日帰り形式
③ 情報科学若手の会 会期：2014年9月頃予定 合宿形式

6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

- ① 次の 7 つのフォーラムで活動する。
サービスサイエンス／ユニバーサルデザイン協創／IT ダイバーシティ／
高度 IT 人材育成／コンタクトセンター／IT 未来人材／ビッグデータ活用実務
- ② 年1回の成果報告と評価を実施し，それに基づくフォーラム組み替えの仕組みを確立し，新たなフォーラムの立ち上げを検討する。

- ③ 戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため、情報処理推進機構（IPA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、情報サービス産業協会（JISA）、電子情報技術産業協会（JEITA）など、ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また、ITプロフェッショナルが学会に何を期待するのかを、フォーカスグループなどにより調査する。
- ④ デジタルプラクティス編集委員会、ITプロフェッショナル委員会との連携を強化して、ITプロフェッショナルに魅力のあるソサイエティに向けて検討する。

6.4 コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局 [所掌：「あから」強化推進委員会]

トッププロ棋士との対局を実施するため以下の活動を行う。

(1) コンピュータ将棋システム「あから」の最新版開発

2015年度にトッププロ棋士との対戦を行うために「あから 2015（仮称）」の開発を行う。2014年5月のコンピュータ将棋選手権の結果などを踏まえて委員会で検討して方式を決定する。開発者を含めた委員会の会合を定期的実施して開発を進める。

(2) コンピュータ将棋を題材とした情報処理に対する興味を喚起するためのイベント等の実施

2014年度の全国大会およびCEDEC2014など関係団体の行事において、コンピュータ将棋に関するシンポジウム等を企画、実施し幅広い層に対して情報処理技術の進歩をPRする。

(3) プロ棋士との対局実現に向けた関連団体との折衝

- ① 2015年度にトッププロ棋士との対戦を実現するために対局の実現の条件（トッププロ棋士の対局者、対局時期、対局数、対局時間、費用など）を将棋連盟と頻繁に折衝する。
- ② 対局のスポンサー確保の活動を将棋連盟と共同して積極的に進める。

6.5 AIプログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

本プログラミングコンテストは、インターネット産業の急速な発展によるエンジニアの質と量の確保がますます重要となる中、若い世代から将来第一線の研究者や開発者になりうる、また世界市場を舞台に活躍できる人材を育てることを目的に、2012年度より「IPJS International AI Programming Contest "SamurAI Coding"」を開催している。今年度で第3回目となる。

- ① より広い層の参加者を求めるため、次のような施策を検討・実施する。
 - ・CEDEC、ICPC Java Challengeと連携し、参加を呼び掛ける。
 - ・ACMと共催できるよう進める。
 - ・決勝戦は、3月の第77回全国大会と同会場の京都大学での開催を予定する。
 - ・名称は、「SamurAI Coding 2014-15」とする。
- ② 競技システムの信頼性・利便性の向上に努める。

6.6 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

各支部において支部連合大会、講習会等を開催する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

全会員に配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」、「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に、特集と連載中心の編集を行う。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービスという観点からも、会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにすることを目指す。

- ① 連載記事のバリエーションを増し、幅広い読者に読まれる会誌を目指す（例：海外情報、人物紹介、自己啓発、教育関係など）。
- ② 毎年の季節を考慮した定番記事を工夫する。
- ③ 著名人による巻頭コラムは継続し、幅広い分野の方に執筆を依頼する。
- ④ 賛助会員アンケートによる意見をフィードバックする。
- ⑤ 記事の補足情報を Web に掲載するなど、オンライン版との連携強化を図る。
- ⑥ 過去の記事・論文を利活用する施策、例えば、オンライン版別冊の企画などについて検討する。
- ⑦ 学生会員向けのサービス強化の一環として、各支部の学生会員（または若手会員）に記事を依頼する。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 会誌への広告掲載、IPJSJ メールニュースへの広告掲載、Web サイトへのバナー広告掲載、カタログ同封サービスへの広告掲載の魅力を高め、総務財務委員会等と協力して広告活動に一層努力する。
- ② 別刷の購入を視野に入れた特集等の企画を積極的に行う。
- ③ 特集記事に関連した広告を掲載できるように広報活動を強化する。
- ④ グループウェアを活用し、今まで以上に活発な議論を行う。
- ⑤ 記事広告の掲載も検討する。

8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

論文誌の論文投稿数、採録数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）は基幹英文論文誌として育成・強化し、CVA 等のトランザクションも併せてインパクトファクタの取得を目指す。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

- 1) 論文投稿数の増加に向けた取り組み、および採録数の増加に向けた取り組み
 - ① 年間の論文採録数は、280 編以上を目標とする。
 - ② 論文執筆のための心構えの広報の強化による投稿論文の質の向上を図るとともに、「べからず集」の徹底による査読の質の向上とそれに伴う採録率の安定・向上を目指す。
- 2) 論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の運用と見直し
 - ① 査読プロセス全体を見直し、可能な部分について簡素化する方向で編集体制の改善を検討する。
 - ② 既存商用システムや他学会の査読制度など調査し、新システムへの移行の可能性を具体的に検討する。
- 3) 電子化を有効活用した改善
 - ① 論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の掲示を検討する。
 - ② 特集号等での実情を踏まえ、マルチメディア論文の受付、査読および掲載についての規定の整備をさらに進める。
 - ③ 研究会推薦論文制度の運用を定着・拡充させ、良質の論文の投稿を喚起する。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

1) JIP の海外投稿促進と国際化

Web of Science 収録基準を満たし、インパクトファクタ (IF) の 2015 年度の取得を目指す。

- ① 年間論文採録数の目標を 85 編とし、2015 年 1 月号から隔月刊行に移行する。管理運営体制をさらに整備し、2018 年 1 月号からの月刊化を目指す。
- ② 研究会推薦論文の英語化を促し JIP に掲載するというパスを確立させ、良質の論文を呼び込む。
- ③ 和英混載トランザクションで採録が決定した英語論文を JIP にも掲載できるように制度を整備する。
- ④ 編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。
- ⑤ 国際会議の優秀論文、著名な研究者の招待論文、国内の大規模プロジェクト等の成果論文を積極的に採録する。また、国際会議・海外の学会との連携等、JIP 独自の特集号を企画する。
- ⑥ JIP 掲載の無料を 2 年間 (2015 年 7 月 31 日まで) 継続し、それを有効活用するとともに、積極的な英語化のサポートを行って英語論文の投稿を促進する。

2) 論文査読管理システム (PRMS : Paper Review Management System) の英語での運用

論文の投稿、査読、オンライン会議、採否決定等一連の作業の PRMS (英語版) での運用をしつつ、既存商用システムや他学会の査読制度など調査し、新システムへの移行の可能性を具体的に検討する。

(3) トランザクション (10 誌) [所掌：各トランザクション編集委員会]

発行の安定性と永続性、ジャーナルとの協調、JIP との連携、購読数の拡大を目標に、以下の 10 誌の発行を計画する。トランザクション合計で採録論文数 200 編以上を目指す。ジャーナルと同様に英文論文の投稿促進、および英文トランザクションのインパクトファクタ取得の検討も行う。また、トランザクションにおける論文査読管理の電子化の推進を行う。

情報関係学会英文論文合同アーカイブズ (IMT : Information and Media Technologies) の編集運営会議幹事学会として編集および定期的刊行を実施するとともに、今後の運営について見直しを行う。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 [所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

- ① 実務活動の論文誌「デジタルプラクティス」のプレゼンス向上と読者層・著者層の開拓
- ② 社会的有用性を重視した査読基準の確立・共有と、実践に関する記述例の蓄積に努める。
- ③ IT 産業に従事し、論文執筆に馴染みの薄い方々に対して、「デジタルプラクティス」論文発表のメリット (自身の業績や研究成果を論文の形で半永続的に残すこと等) を訴求し、投稿を促進する。
- ④ 査読委員・編集担当の確保、モニター制度の充実、収益の改善など、安定した刊行のための体制整備に努める。
- ⑤ ソフトウェアジャパンや連続セミナー・短期セミナー等のイベント、他団体等との連携を推進する。
- ⑥ 4 月号より会員への冊子配布を廃止し、原則電子版 (電誌) のみの発行とする。

(5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティスアワード等を贈呈する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

新しい体制で既企画のメンテナンスを中心に活動を行う。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会、コンピュータ博物館小委員会]

- ① 「情報処理技術遺産」「分散コンピュータ博物館」の認定
- ② 「コンピュータ博物館」の充実
- ③ オーラルヒストリーの編集・公開
- ④ 「私の詩と真実」の企画

- ⑤ 遺産保存活動
- ⑥ 技術遺産の復元・修理（東京理科大の微分解析機の復元協力）に取り組む

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① 2014年4月より大学向けサイトライセンスサービスを開始し、多くのユーザへのビジビリティ向上を図る。企業向けサイトライセンスサービスの導入を検討する。
- ② サイトライセンス機能のユーザビリティ向上、検索速度向上、目次配信機能の追加等、会員からの要望に応え、情報学広場のサービスの充実を図る。
- ③ 研究会と連携し、マルチメディアコンテンツを含む論文の採録に取り組む。

9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

ISO/IEC JTC 1 対応を主に、情報技術に関する国際規格の審議およびこれに関する調査研究、国内規格の審議などによる標準化活動を行う。より戦略的かつ健全な運営を行うために、標準化活動の重み付けのさらなる検討と、規格賛助員および委員会メンバのためのサービス向上に努める。

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO/IEC JTC1 直属の 17 の SC（全 20SC 中）および各 WG, SG(Study Group), SWG(Special Working Group), IG(Incubator Group)の対応を行う。さらに国際提案準備と、JIS 原案作成を適宜行う。

- ① メディア符号化（SC29）、デジタル記憶媒体（SC23）、文字コード（SC2）などの重点領域の議長、幹事国役職引き受けを継続する。
- ② 昨年の IT ガバナンスと IT マネージメント(SC40)の設立に伴い、対応する国内における委員会の整備を行う。
- ③ 技術委員会の傘下に設置した情報技術小委員会を通じて、スマートシティズ SG、ビッグデータ SG、モバイルアプリケーション IG に対する対応を行うと共に、日本発の新規領域における国際提案を検討する。
- ④ 議長、幹事国、コンビーナ、プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め、活動の優先度を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。
- ⑤ ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMA）、電子情報技術産業協会（JEITA）などの協力を得ながら積極的に対応を図る。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 規格賛助会費と権利の関係を健全化すべく、各委員会活動への参加形態の整理と見直しを行う。
- ② 一昨年度に引き続き費用負担予算配分モデルを軸に各委員へのコスト構造の理解と意識を高め、口数の増加と新規規格賛助の獲得に努める。

(3) 標準化活動の支援と広報

- ① 新規事業として標準化セミナーを開催し、国際標準化におけるホットトピックスや各委員会における活動内容を紹介することで、国際標準化に対する意識を高め、参加者を募る。
- ② システムのセキュリティ強化と委員会活動の効率化推進

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図ると共に、海外学協会との連携を推進する。

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP委員会]

- ① IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
- ② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加と IFIP 活動周知の活性化
- ③ IFIP IP3の活動に参加し、CITP 資格の国際的相互認証の仕組みを構築する

(2) IEEE ならびに IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① The 38th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2014) への技術協力
日程：2014年7月21日（月）～25日（金），場所：Västerås, Sweden
- ② 全国大会での IEEE-CS 会長招待講演を実施する

(3) 海外学協会との連携・協力

- ① The Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力および双方の全国大会での会長の交互招聘・招待講演の実施する
- ② 下記の海外学協会との協力関係の継続
 - ・ Association for Computing Machinery (ACM)
 - ・ Computer Society of India (CSI)
 - ・ 他の学協会とも協力関連構築を模索
- ③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(4) 国際会議

COMPSAC2014の他、下記の国際会議を開催する。

- ① The 8th International Workshop on Security (IWSEC2014)
2014年8月27日～29日，弘前大学（日本）
- ② The 7th International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech2014)
2014年9月8日～10日，Universidad de Chile（チリ）
- ③ 20th Asia and South Pacific Design Automation Conference 2015 (ASP-DAC 2015)
2015年1月19日～22日，千葉（日本）
- ④ The 8th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2015)
2015年1月20日～22日，函館（日本）

11. その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

目的を同じくする学協会との連携および協力を行う。情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）等とこれまでの協力関係をさらに強化する。

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会に参加し、関連学協会との協力連携を図る。日本工学会の主催で2015年11月29日～12月2日に国立京都国際会館で開催予定のWECC2015世界工学会議にも協力をする。また、工学系6学会会長連携会議にも参画し、工学連携に取り組む。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム(FIT) (前6項参照)」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、若手研究者の会を通じて、日本学術会議の若手アカデミー委員会に参加する。

11.2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜、会議の協賛後援等を行う。

12. 法人運営

会員の視点での会員サービスのあり方を検討し、必要に応じて会員制度および学会情報システムの見直しを実施する。

12.1 入会促進

(1) 新規会員の獲得と会員減の防止

- ① 各活動において学会の価値向上に取り組み、新規会員の獲得に努める。
- ② 理事を中心に新規会員獲得の地道な勧誘と企業への働きかけを継続するとともに、引続き、退会要因の分析による退会防止に努める。
- ③ 会費の口座引落、クレジットカード決済等の推進により「滞納→資格喪失」を防止するよう継続して対応する。

(2) 学生会員の獲得と育成

- ① 学生無料トライアル会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進する。(目標1,000人)
- ② 学生会員の1研究会無料登録を継続し、研究会活動への参画を通じて学生会員の育成に努める。
- ③ 研究会と支部の協力を得て、学生のコミュニティを作り、自発的な参加を促す。また、学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努める。

12.2 政策提言活動の推進

政策提言委員会は、学会各種委員会と連携して、日本学術会議の関連活動、関連省庁との意見交換体制を継続し、国の政策および方針について学会としての意見を積極的に提言・情報発信することにより、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して、学会の一層のビジビリティ向上に繋げる。

12.3 震災復興関連の取り組み

2014年5月の震災復興シンポジウム参加を始め、日本工学会の持続可能な社会インフラの構築に向けた取り組みに参画する。

12.4 運営体制の充実・改善等

(1) 理事の増員による運営体制の充実

定款改訂により、新たに「長期戦略担当理事」と「新世代担当理事」を設け理事数を 30 名に増員して、運営体制の充実を図る。

(2) 新世代発想の学会運営への取り込み

新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」を設け、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。

また、若手研究者の会からの意見を学会運営に反映できるよう、引続き、企画政策委員会・政策提言委員会・調査研究運営委員会などと連携して対応する。

(3) 寄付の募集

個人及び企業の皆様に幅広く寄付の御願いをし、学会活動の更なる活性化を図っていく。寄付は現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産、ボランティアで提供いただける役務なども含む。

(4) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に、学会運営における長期的ビジョンの継続が可能となる体制を整えていく。

(5) 中長期計画を踏まえた運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。

(6) シニア会員制度の導入

該当者へ「情報処理学会シニア会員」の称号を贈呈することで、学会活動に対する本学会からのより具体的な敬意を表明するとともに、将来にわたって引き続き学会活動の中心となって活躍頂く。

(7) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter, Ustream などのソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進する。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPSJ メールニュースの内容充実に継続して努める。
- ③ 諸活動データの収集・分析により、その評価・改善を継続する。

(8) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

会員サービス向上のために会員制度の見直し、および業務改革を検討し、実現に必要な学会情報システムの見直しと整備を実施する。また、併せて BCP に関する検討を継続する。

12.5 その他表彰等

功績賞、学会活動貢献賞、感謝状の贈呈のほか、フェロー認定、情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。

以上

【付表1：研究会・研究グループ】

[コンピュータサイエンス領域：研究会（10）（括弧内は英略称）]

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），計算機アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムとLSIの設計技術*（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB） 各研究会

[情報環境領域：研究会（16）（括弧内は英略称）]

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），グラフィクスとCAD（CG），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），デジタルドキュメント（DD），モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ*（ITS），ユビキタスコンピューティング（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス&システム（CDS），デジタルコンテンツクリエイション（DCC） 各研究会

[メディア知能情報領域：研究会（12），研究グループ（2）（括弧内は英略称）]

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE） 各研究会
ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（SSR） 各研究グループ

*名称変更

【付表2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開催日	場所
マルチメディア，分散，協調とモバイル（DICO2014） シンポジウム（DPS，GN，MBL，CSEC，ITS，UBI，IOT，SPT，CDS，DCC）	2014. 7. 9(水)～11(金)	月岡温泉 ホテル泉慶
iDB フォーラム 2014 (DBS)	2014. 7.	九州大学（予定）
DA シンポジウム 2014(SLDM)	2014. 8. 28(木)～30(土)	下呂温泉 水明館
情報教育シンポジウム（SSS2014）（CE，CLE）	2014. 8.	（未定）
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2014 （SES2014）（SE）	2014. 9. 1(月)～ 3(水)	芝浦工業大学
エンタテインメントコンピューティング 2014（EC）	2014. 9. 12(金)～14(日)	明治大学 中野キャンパス
組込みシステムシンポジウム 2014（ESS2014）（EMB）	2014. 10. 22(水)～24(金)	オリンピック記念 青少年センター
コンピュータセキュリティシンポジウム 2014（CSEC，SPT）	2014. 10. 22(水)～24(金)	札幌コンベンション センター
ゲームプログラミングワークショップ（GPW）（GI）	2014. 11. 7(金)～ 9(日)	箱根セミナーハウス
第 26 回コンピュータシステム・シンポジウム（ComSys2014）（OS）	2014. 11. 20(木)～21(金)	学術情報センター （予定）
グループウェアとネットワークサービスワークショップ 2014(GN)	2014. 11. 20(木)～21(金)	（未定）
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ（DPS）	2014. 11. 26(水)～28(金)	（未定）
WebDB フォーラム 2014（DBS）	2014. 11.	（未定）
インターネットと運用技術シンポジウム（IOTS2014）（IOT）	2014. 12. 11(木)～12(金)	京都（予定）
災害コミュニケーションシンポジウム（IS，IOT，SPT）	2014. 12.	（未定）
情報アクセスシンポジウム 2014（IFAT）	2014. 12.	（未定）
人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん 2014）（CH）	2014. 12.	（未定）
高度交通システムシンポジウム 2015（ITS）	2015. 1. 16(金)	日本科学未来館
ウィンターワークショップ 2015（SE）	2015. 1. 22(木)～23(金)	（未定）
先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2015 （ARC，OS，HPC，PRO）	2015. 1.	（未定）
インタラクション 2015（HCI，GN，UBI，EC）	2015. 3.	日本科学未来館

情報処理学会中長期計画 2014年度版

情報処理学会 中長期計画			2011年度				2012年度				2013年度				2014年度				2015年度				2016年度	2017年度				
項目	方向性	キーワード	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q						
学会誌	面白い読み物	特集から連載へ	毎号100頁以内に制限(DP込で500g以下)				新連載企画(竹内先生済、計算科学未等)				解説論文の販売検討(季節感を考慮した編集)				読まれる学会誌				編集長交代 季節感を考慮した編集・発行									
	ファン拡大	会員拡大	オンライン版にマルチメディア情報掲載開始(2011年3月号のサンプルコード掲載)				Webカタログ オンラインWG試行(中止)				WG再編 新連載(IT好き放題、ヒブリアート)				新表紙(月替わり)				新ビジネスモデル(DM、企業連携)				新表紙					
論文誌	投稿数増	論文投稿件数	74全国大会で特別セッション開催 特集号企画、推薦論文の広報活動(I) 75全国大会で特別セッション開催				論文誌編集方針の見直し「べからず集」の徹底				特集号企画、推薦論文の広報活動(II) 76全国大会「論文の書き方・査読の仕方」				招待論文・特集号の企画 推薦論文取組強化 JIP/TRAN連携													
	採録数増	論文採録数増	特集号企画提案制度整備				論文誌関連規則の整理(グループ主査からのガバナンス強化)				ベストプラクティスの収集と展開				新編集方針の開始(予定) 目標は年間250編 マルチメディア論文の受付 編集委員会企画の特集号													
調査研究	研究会活性化	制度見直し	FR領域⇒MI領域に名称変更				グローバル対応の取組検討(FIP他)				調査研究の役割強化(政策提言、国際連携、政府・学術会議連携)				ロードマップ策定(2013.12) 調査研究の役割強化(政策提言、国際連携、政府・学術会議連携)													
	参加者増	魅力度アップ	震災対策・復興支援(各イベントで実施*2)				ベストプラクティスの収集と展開				新たな参加方法(遠隔参加等)の検討				参加者・登録者増				イベントのビデオ配信									
事業	イベント活性化	大会アウトプット増	名古屋開催(名古屋)				仙台開催(東北大学) 震災復興Work Shop				東京開催(東京電機大学) スマホアプリでプログラム配信				関西開催(京大)				??開催									
	技術応用	FITアウトプット増	函館開催(函館大学) FIT運営方法検討				東京開催(法政大学) FIT運営方法検討				鳥取開催(鳥取大学) 神戸CVBと連携				FIT2014 つくば(筑波大)				FIT2015 四国開催(愛媛大)??開催									
規格標準化	時代変化への	制度改革	新規標準分野へのさらなる積極的取組・標準の重み付け検討				重点分野への戦略的取組				国際会議招致の優先順位付けと予算展開				委員会活動への参加形態の整理と見直し				新規標準化課題への予算措置の検討				幹事国獲得に向けた事務局体制の準備					
	活動の活性化	知名度向上	役員会の担当制の見直し 事業構造の整理と費用負担の再検討 本部との情報共有の場の新設				賛助員へのコスト構造の説明と賛助プロモーション				Webサイト・コンテンツ充実による情報発信強化				Web改善による委員会活動効率化の推進				主要国との連携策に関する検討				活動アピールの手法としてのプレス発表の施策検討					
その他	政策提言	夢ロードマップ対応	学会ロードマップシナリオ作成				学会ロードマップ(1次)				学会ロードマップ(2次) 学術会議への提案				学会ロードマップ(3次) 学術会議への提案													
	教育活動	人材育成ビジョン	ビジョン検討				J07普及活動				情報入試への取組				情報入試				情報入試									
学生会員育成	学生会員を2500名以上に	学生無料トライアル会員制試行開始(拠点校の準備)				2013年度目標 3000人				拠点校の拡大(34校)・連携 学生無料トライアル会員制本格運用準備				支部との連携				拠点校での学生コミュニティ										
	昇格者を400名以上に	支部インセンティブ・ベストプラクティス共有				2012年度目標2550人⇒2470人				トライアル会員280人 トライアル会員530名(3/M)				トライアル会員目標1000人														
電子図書館	新たな成果発表形態	PDF埋め込みのマルチメディアの利便性向上				新たな形の成果発表・情報発信の推進				マルチメディア対応				新たな形の成果発表・情報発信の推進														
	電子図書館	講読者向けオンラインアカウントサイトライセンスへの移行				CD-ROM廃止				サイトライセンスサービス試行開始 賛助会員向けサービス検討				動画作成権問題				企業向けサイトライセンス開始										
コンピュータ将棋	トップ棋士との対局	全国大会イベント				あから2013開発				トッププロ棋士との対局・勝利(延期)				あから最新版開発				トップ棋士との対戦										
	非会員、青少年にPR	関連イベント開催(アマ強豪と対戦、CEDEC出展)				あから2013の開発:合議方式の研究推進非会員・青少年への情報処理技術のPR・関心の喚起				シンポジウム開催 非会員・青少年への夢																		
Samurai Coding	世界規模開催	検討委員会:開催承認				Samurai Coding 2013 イベントアナウンス				世界予選 決勝戦				Samurai Coding 2014-2015 開催				世界予選 決勝戦 決勝戦@全国大会										
	300チーム、1000人規模	プレスリリース・公式サイト				次年度計画				次年度計画				イベントアナウンス CEDEC? ICPC?				次年度計画										
事務局	会員サービス	クレジット決済検討				個人・賛助向けサービスの拡充検討				シニア会員制度施行 ビデオ配信				電子図書館機能拡充				新会員サービス										
	情報システム	課題検討・優先順位付け(コスト削減、BCP対策済、クラウド化未、会員サービス向上検討、既存システム更新検討、個別課題等)				セキュリティ対策、DoS攻撃対策検討				対策の実施				セキュリティポリシー、ガイドライン継続				学会システムリニューアル										
IT-WG	学会システムWG	学会システムWG立上げ				リニューアル検討				開発着手(方向性未定。検討継続)				開発継続 会員との双方向コミュニケーション基盤														
	IT-WG	PRMSオンライン会議対応				PRMS機能強化				EM利用中止、SO試行?				△フェーズ0				△フェーズ1				△フェーズ1?						
学会Web	リニューアル・CMS化	リニューアル				ユーザビリティ改善				ユーザビリティ改善				SEO対策				メディア露出										
	学会Web	英語Web更新				SNS連携?				非会員へのリーチ				SNS連携?				非会員へのリーチ										
学会組織	理事任務の見直し	技術応用担当理事の設置				新選挙制度				新選挙制度				新世代理事の取組				長期戦略理事の取組										
	学会運営	会員の満足度(CS)向上、学会全体の広報戦略の検討(広告含)				即時入会				寄付の募集 総会@理科大 微分解析機お披露目				シニア会員 セキュリティガイドライン														
震災復興	震災復興支援	会誌「危機発生への対応」				震災復興WorkShop				工学連携				工学連携														
	震災復興支援	復元デザインコンテスト				WECC2015対応				復元3周年				復元4周年				復元5周年										